

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

道の駅なないろ・ななえ活用推進事業

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道亀田郡七飯町

3 地域再生計画の区域

北海道亀田郡七飯町の全域

4 地域再生計画の目標

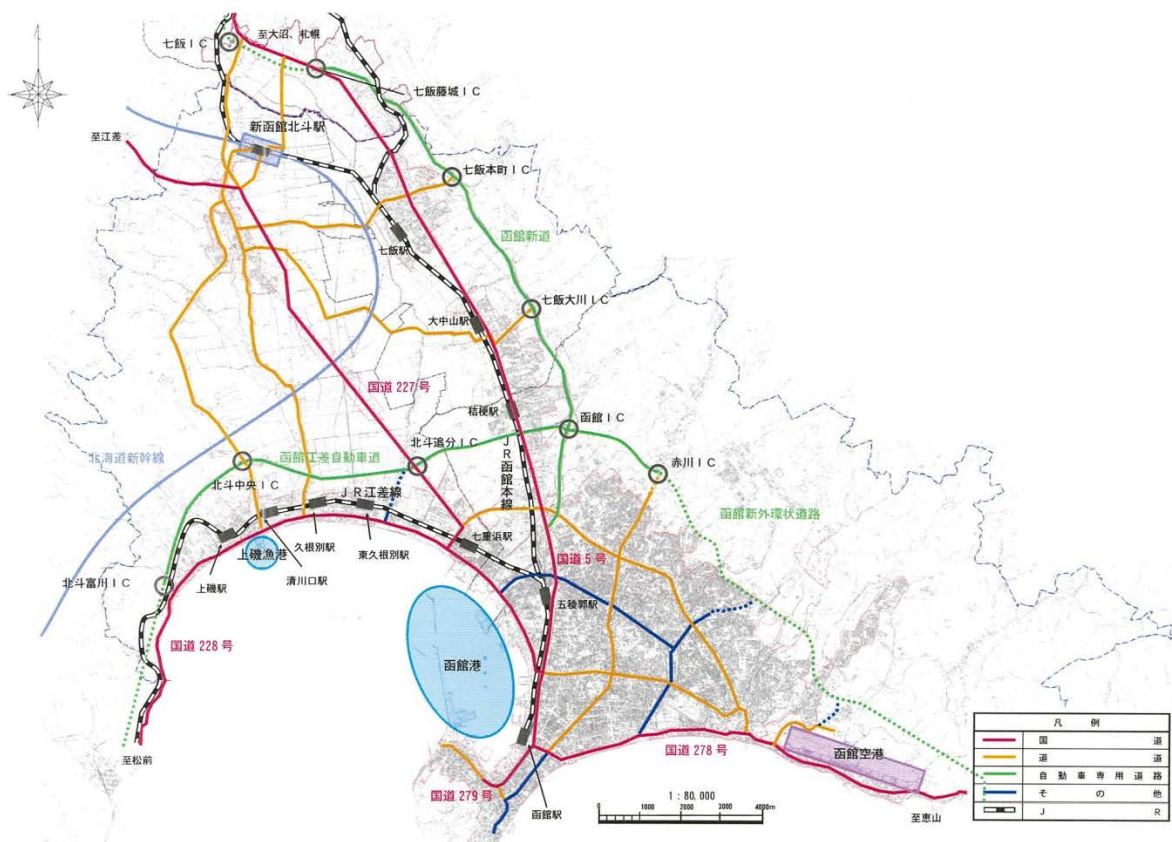
4-1 地域の現状

七飯町は、北海道渡島半島の南部に位置し、函館市から北西に約16km、車で約30分、JR函館本線で約20分の距離にある。

道路は、町を縦断する一般国道5号が函館新道と現道が並行して札幌方面へ続いており、今後予定されている北海道縦貫自動車道の整備と七飯IC（仮称）の設置など交通アクセスの向上が期待されている。一般国道5号は、道南エリアと札幌市とを結ぶ道路交通の大動脈であり、昼夜にわたり多くの人流・物量交通を支えている。

また、一般国道5号沿いには現在、「道の駅なないろ・ななえ」を整備中（平成29年6月着工、平成30年3月開業予定）である。道の駅は、東日本大震災の際には被災者の避難場所や支援物資の拠点となるなど、防災拠点としても重要な役割を果たしたが、本町より北約30kmに位置する森町より南のエリアでは道の駅が未整備であり、「道の駅なないろ・ななえ」は、災害時における道南エリアの防災拠点としての機能も注目されているところである。

また、本町は、秀峰北海道駒ヶ岳と大沼湖、小沼湖、蓴菜沼を有し、日本新三景にも選定された「大沼国定公園」や新日本歩く道紀行100選に選定された「赤松街道」などの観光資源を有しており、毎年多くの観光客が訪れている。

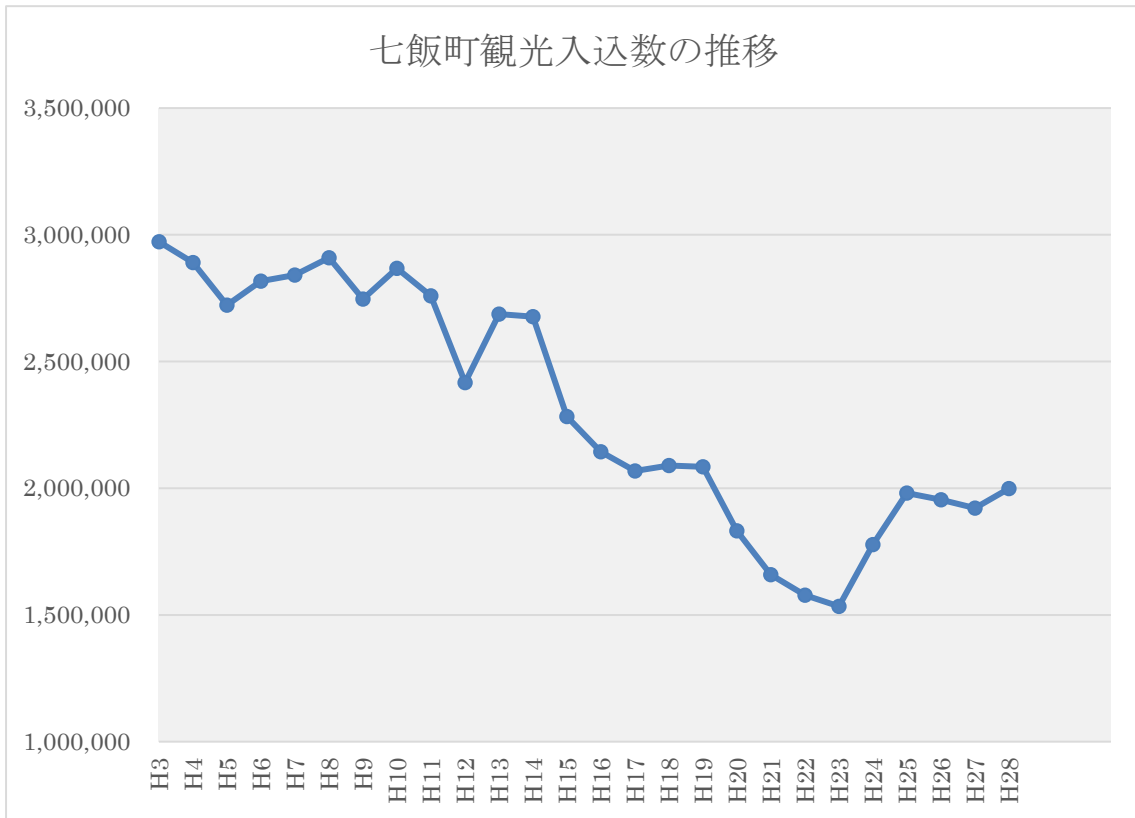


4-2 地域の課題

七飯町の観光入込客数は、平成3年度に297万人を記録したが、以降は緩やかに減少し、特に平成23年度においては、東日本大震災などの影響により153万人にまで減少した。

ここ数年は回復基調にあるものの、平成28年度の観光入込客数は200万人程度に留まっており、ピーク時の2/3程度となっている。

観光入込客数の推移を月別で見ると、4月から10月にかけては毎月20万人前後で推移するのに対し、11月から3月の冬期間は毎月10万人から15万人程度にとどまっており、観光入込客数の増加を図るためには、冬期間の観光客の呼び込みが課題となっている。



4-3 目標

本計画では、七飯町の持つ大沼国定公園、赤松街道といった地域資源や地域の魅力を伝え、訪れる人々が喜び楽しむことができる「交流の場」として「道の駅なないろ・ななえ」を活用し、また、地域の人々が集い交流し、文化・コミュニケーションの充実を図り、世代を越えた交流を可能にする等、さまざまな「活動の場」としても活用することを通じ、冬期間にも観光客を呼び込むことができるまちとなることを目標とする。

【数値目標】

事業	道の駅 なないろ・ななえ活用推進事業		年月
	K P I 観光入込客数	道の駅なないろ・ ななえの入込客数 (11月から3月)	
申請時	1,954,000人	—	H29.3
初年度	2,000,000人	10,000人	H30.3
2年目	2,248,000人	69,000人	H31.3
3年目	2,346,000人	103,000人	H32.3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

現在、一般国道5号沿いに「道の駅なないろ・ななえ」を整備中（平成29年6月着工、平成30年3月開業予定）である。管理運営は指定管理者制度を導入し平成30年1月より一般社団法人七飯町振興公社が行う。道の駅を活用し地域社会における観光と産業振興の発展、地産地消や食育の推進など地域活性化に寄与する。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

(1) 事業名：道の駅 なないろ・ななえ活用推進事業

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

七飯町及び周辺地域の自然、景観、歴史・文化、食の普及に努めるとともに、地域社会における観光と産業振興の発展、地産地消や食育の推進など地域活性化に寄与する。

七飯町にはリンゴをはじめとした特産品や大沼を代表とする観光資源など、すでに国内外に発信された様々な魅力がある。

これら町の魅力を「七飯ブランド」として確立するとともに、いまだ世間に広く知られていないものやこれまでにない新たな七飯らしい魅力の発掘や創造に努め、物産振興・観光振興を柱とした七飯の魅力発信基地「道の駅なないろ・ななえ」の活用による冬期間の観光入込客数の確保を目的とする。

(事業の内容)

・道の駅なないろ・ななえ活用推進事業

11月から3月までの冬期間において、北海道では路面の凍結や天候の急変などのリスクから、長距離ドライブや北海道外からの観光客が減少する傾向にある。

冬期間の集客を確保するため、七飯町の魅力をアピールする場として、「道の駅なないろ・ななえ」において、七飯産の食材を使った料理教室や、工芸品作製の体験教室等のイベントを実施する。なお、周知方法としては、毎年札幌市で開催されるさっぽろ雪まつりなどでのPRを予定している。

→各年度の事業の内容

初年度)平成30年3月の開業に合わせて、七飯町の食や特産品をアピールするオープニングイベントを実施する。

2年目)①キッチンサロンななえ(仮称)

町内の農畜産家や飲食店などを講師として、七飯産の食材を使った料理教室を11月から3月までの冬期間にひと月2回程度開催する。

②トライアルサロンななえ(仮称)

町内の工芸家や文化サークルなどを講師として、季節のイベントや工芸品を作製する体験教室を11月から3月までの冬期間に月2回程度開催する。

3年目)アンケートの実施などにより、参加者の意見を把握し、各種イベント内容の改良・拡大を図る。

(4) 地方版総合戦略における位置づけ

本町の創生総合戦略における政策分類として「食や観光をはじめとする力強い産業と雇用の場をつくる」を定めており、地域の資源を活かした食や観光、地域産業において必要な人材の育成を図るとともに域外需要の取り込み拡大や域内循環の向上などにより、地域産業の競争力強化を図ることとしている。また、基本目標として平成31(2019)年度までに、観光入込客数を平成26(2014)年度比20%増加としており、本事業はまさにこの目標達成に直接寄与するものである。

(5) 事業の実施に関する客観的な指標(重要業績評価指標(KPI))

事業	道の駅 なないろ・ななえ活用推進事業		年月
KPI	観光入込客数	道の駅なないろ・ななえの入込客数(11月から3月)	
申請時	1,954,000人	—	H29.3
初年度	2,000,000人	10,000人	H30.3
2年目	2,248,000人	69,000人	H31.3
3年目	2,346,000人	103,000人	H32.3

(6) 事業費

(単位:千円)

道の駅なないろ・ななえ活用推進事業 区分	年度	H29	H30	H31	計
	事業費計	5,000	5,000	5,000	15,000
委託料	5,000	5,000	5,000	15,000	

(7) 申請時点での寄付の見込み

(単位：千円)

	H29	H30	H31	計
(株)PREMIUM	5,000	5,000	5,000	15,000
計	5,000	5,000	5,000	15,000

(8) 事業評価の方法（PDCAサイクル）

(評価の方法)

外部有識者等を含む検証機関「七飯町地方創生推進委員会」において、重要業績評価指標（KPI）及びPDCAサイクルにより、達成度の検証や見直しの検討を行う。

(評価の時期・内容)

毎年5月に効果検証を行い翌年度以降の取り組み方針を決定する。

(公表の方法)

目標達成状況については、検証後速やかに町公式ホームページで公表する。

(9) 事業期間 平成29年11月～平成32年3月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 道の駅なないろ・ななえ建設工事

事業概要：道の駅なないろ・ななえ建設に伴う建築主体工事、機械設備工事、電気設備工事及び外構工事一式

実施主体：北海道亀田郡七飯町

事業期間：平成29年度～平成31年度

(2) 道の駅なないろ・ななえ指定管理

事業概要：道の駅ななえいろ・ななえ管理運営に伴う指定管理

実施主体：北海道亀田郡七飯町

事業期間：平成29年度～平成31年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

外部有識者等を含む検証機関「七飯町地方創生推進委員会」において、重要業績評価指標（KPI）及びPDCAサイクルにより、達成度の検証や見直しの検討を行う。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

毎年5月に効果検証を行い翌年度以降の取り組み方針を決定する。

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

目標達成状況については、検証後速やかに町公式ホームページで公表する。